

B-6 ピンキング効果に関する研究
実践女大家政 平山順元

目的 織物のほつれ防止に対するピンキング効果に関して、従来のピンキングはさみのピンキング形状が最適なものかどうかを検討するために、形状を各種変化させてピンキングし、そのほつれ易さを測定した。

方法 試料としては、糸密度が異なり、ほつれ易さに差のあると考えられる織物として、キャラコ、天竺、毛芯の3種類を用いた。ピンキング形状は普通の山型のほかに凹凸型を用い、山型については山の頂角を変化させ、また凹凸型では凸部の巾と長さを変化させた。これらの布を乾式としてはランダムタンブリングテスターを用い、湿式としては、ランダーメータを用いてほつれを生じさせた。ほつれ量は、各山についての平均ほつれ本数によって評価した。なお、ほつれの測定のほか、ほつれと織物特性の関係をみるため、糸の引抜き抵抗なども測定した。

結果 予想された如く、ほつれ易さは、毛芯、天竺、キャラコの順に大きく、これは、各布の糸密度と、引き抜き抵抗の差によるものと思われる。また乾式より、湿式の方が、ほつれが大きかった。ピンキング形状の効果については、キャラコと天竺では凹凸型が優れ、毛芯では山型が優れてる傾向が認められた。また山型では一般に頂角が大きいものほどほつれ防止効果が大きくなる傾向を示した。